

令和8年度都川水の里公園「稲作体験講座」第2回 6月7日

第2回の活動は、「田の作業」「畑の作業」「田んぼの自然観察」「看板づくり」と盛りだくさん。今回は、11組33人の受講者が参加しました。曇りで気温は約20℃でしたが、湿度が高かったため、こまめな水分補給を呼びかけながら活動しました。

- 1 本日のプログラムを案内した後に、イネの生育状況と草取りの説明がありました。田んぼではイネが順調に育っており、草取りの目的や水田雑草の種類、畦の草刈りなどについて説明を聞きました。
- 2 田の中に入って草取りをする人、畦の草刈りをする人に分かれて作業を行いました。田の中には、オモダカ、コナギ、ウリカワ、セリ、アオミドロ等の水田雑草が生えており、草を根から抜いたり、泥の中に埋め込んだりしました。中耕除草機(田車)を用いた草取りも体験しました。
- 3 自噴井「太郎」脇の保全水田3枚(約500㎡)で、参加者が協力して草取りを行いました。曇り空の下でしたが、みんなで作業したことで田んぼの中や畦の草をきれいにすることができました。



▲イネの生育状況、草取りの説明



▲田の草取り





▲田の草取り



▲中耕除草機（田車）を用いた草取り体験



- 4 畑の作業は、サツマイモ苗の植え付けです。公園入口左の畑で、3班に分かれて作業しました。畝に苗を置き、土をかけながら、秋の収穫を楽しみに植え付けを行いました。



▲サツマイモ苗の植え付け

サツマイモは、苗を植えてから約100～120日後に収穫できます。これからの生育を見守り、10月の収穫祭で収穫した芋をいただく予定です。



- 5 畑の作業の後、田んぼや水路、湧水の周辺で自然観察を行いました。講師は、自然観察指導員の山岸さんと萩さん。田んぼ周辺に生育・生息する植物、鳥類、カエル、魚類、トンボ、クモなど、さまざまな生きものを観察しました。

観察では、アオバハゴロモやクワの実、湿地の植物など、身近な自然をじっくり見ました。昆虫の臭いを確かめたり、アマガエルなどの両生類を観察したりと、子どもたちは生きものの特徴に興味津々でした。

水の里公園の田んぼの水は、自噴井という湧水によって支えられています。地下にしみ込んだ雨水が地上に湧き出す仕組みや、自噴井「太郎」の働きについて説明を聞き、受講者の皆さんも熱心に耳を傾けていました。

自然観察の後半には霧雨が降ってきたため、予定より少し早めに切り上げ、次の看板づくりの時間を確保しました。



▲アオバハゴロモの観察



▲昆虫の臭いの観察



▲クワの実の観察



▲両生類(アマガエル等)の観察



▲湿地の植物の観察



▲自噴井の仕組み説明

6 自然観察の後、田んぼに建てる看板づくりを、3班に分かれて子どもたちの共同作業で行いました。初めに田んぼの名前をみんなで考え、決まった名前や絵を看板に描きました。なかなか名前が決まらないグループもありましたが、時間内に完成させ、それぞれの田んぼに立てることができました。



▲看板づくり(1班)



▲田んぼの看板の前で(1班)



▲看板づくり(2班)



▲田んぼの看板の前で(2班)



▲看板づくり(3班)



▲田んぼの看板の前で(3班)